

下二・未 打消「ず」体 格助(連体修飾格)
思ひ出でぬことなく、思ひ恋しきかううちに、この家

過去「き」体 格助詞(主格)
形・ク・用 形・シク・体

にて生まれし女子のもろともに帰らねば、いかがは

下二・用 形動・ナリ・用 打消「ず」已 四段・終

悲しき。船人もみな、子たかりてののしる。

ラ変・体 形・シク・体

かかるうちに、なほ悲しきに堪へずして、ひそかに

四段・已 四段・已 過去「けり」体 形・シク・体 打消「ず」用 形動・ナリ・用

心知れる人と言へりける歌、

下二・用 過去「き」体 打消「ず」体 存続「り」体 存続「り」用

生まれしも帰らぬものを わが宿に

四段・未

小松のあるを 見るが悲しさ

四段・已 四段・未 打消「ず」用 推量「む」体

とぞ言へる。なほ飽かずやあらむ、また、かくなむ

過去「き」体 係助 完了「り」体 係助 推量「む」体 係助

見し人の 松の千年に 見ましかば

上二・用 上二・未

遠く悲しき 別れせましや

形・ク・用 形・シク・体 反美仮想「まし」終 終助

忘れがたく、くちをしきこと多かれど、え尽くさず。

形・ク・用 形・シク・体 形・ク・已 打消「ず」終

とまれかうまれ、とく破りてむ。

四段・用 意恩「む」終

思い出さないことはなく、恋しい思いの中でも、

この家で生まれた女の子と一緒に帰らないので、

どれほど悲しいことか。(同じ船で帰ってきた)

人々もみんな、子供が寄ってたかつて騒いでいる。

このような中で、やはり悲しさに堪えられず、

こっそりと心の知れている人(筆者の妻)と言い合

った歌、

ここで生まれた子も帰ってこないのに私の家に

小さな松が生えているのを見る悲しさよ

と言った。(この歌だけでは)やはり満足できな

ったのだろう、また、このように、

(子供として)見ていたあの子が松が千年生きる

ように見ることが出来たならば

永遠の悲しい別れをしただろうか、(いや、しなか

っただろうに)

忘れられず、残念なことが多いけれど、書き尽く

すことはできない。

ともかく、こんな日記は早く破いてしまおう。